

## 今回は、ことわざの問題です。

### 問

次の1～3は、各本文のことわざの問題に関する部分を抜粋したものです。それぞれ  に入るもっとも適当なことわざを各選択肢から一つ選び、番号で答えなさい。

1 キジも鳴か<sup>う</sup>ずば撃たれまい、ということばがある。黙<sup>たま</sup>っていればいいのに言わずもがなのことを言って、周りからたたかれる、、と同じような意味の成語だが、ことばどおり、キジはなまじ鳴くばかりに、<sup>りょうし てつぱう</sup>猟師に鉄砲で撃たれてしまう。鳴き声を発することで、ほかのもっと強い動物に発見されやすくなり、危険な目<sup>あ</sup>に遭う可能性が増す。鳴かずにおとなしくしているほうが、安全なのではないか。

- |              |                           |
|--------------|---------------------------|
| 1 鉄はあついうちに打て | 2 出る杭 <sup>くい</sup> は打たれる |
| 3 情けは人のためならず | 4 命あつての物種                 |
| 5 言わぬが花      |                           |

[平成 20 年度出題]

2 だったらどう考えればいいのかというと、たぶん、小さな偶然<sup>ぐうぜん</sup>をきっかけに、幸運がいともやすやすと舞いこんでくるところにこそ、日本の昔話の特質があるのです。三人きょうだい型の昔話における成功が、目標を見定めて挑戦<sup>ちようせん</sup>しつづけることによって得られるのに対し、日本の昔話における幸運は、まさに「」といった具合に、ある日突然<sup>とつぜん</sup>天から降ってくるという感じですか。

- |                 |                          |
|-----------------|--------------------------|
| 1 おぼれる者はわらをもつかむ | 2 棚 <sup>たな</sup> からぼたもち |
| 3 二階から目薬        | 4 ぬれ手に粟 <sup>あわ</sup>    |
| 5 急がば回れ         |                          |

[平成 21 年度出題]

3 仮に日本の自然が常にもっと過酷で、そのままではとうてい人間が生きられない環境であったならば、原日本人も砂漠の民のように、自然を改造したり征服したりしようとしたかもしれない。しかし、日本の自然は通常は温暖で四季の区別がはっきりしており、その変化はたいへん美しく産物も多かったため、原日本人にとってたいへん快適で都合のよいものであった。時に天災が起こったとしても、訴えて待ちさえすればじきにならずもとのよい環境に戻ったのである。まさに「」である。こうした結果として、必然的にソト世界（自然）を畏怖する気持ちが発生したのではなかろうか。

- 1 人事を尽くして天命を待つ
- 2 待てば海路の日和あり
- 3 待つ間が花
- 4 待つ身よりも待たる身

[平成 22 年度出題]